

仙台陣屋かわら版

第七十号

(平成二十二年十二月号)

HP: <http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/> Mail: jinya@town.shiraoi.jp
〒059-0911 白老町陣屋町六八一 TEL/FAX 0144-852666 仙台藩白老元陣屋資料館発行

白老地域文化大学の活動から

十月二十三日(土)、陣屋資料館にて第四十二回白老地域文化大学講座「函館研修旅行報告会」を実施しました。講座は十月に行った函館への研修旅行に参加した学生たちによる報告会であり、施設の紹介や感想のほか、そこから見えてくる白老活性化の課題について語っていただきました。

研修では、今年できたばかりの箱館奉行所や北海道坂本龍馬記念館、元町の旧相馬邸などの施設のほか、函館山にある碧血碑や北斗市の松前藩戸切地(へきりち)陣屋跡、南部藩の砂原陣屋跡やヤママンベ陣屋跡も見学しました。

報告した学生からは、函館は歴史上の人物との関わりをピックアップし大きく取り上げるなど、観光・歴史・文化に対する取り組みの活カや巧みさを感じたという声が多く、体調不良で行くことができなかった学生からも、報告を聞き本当に行った気持ちになったという声がありました。また、研修旅行自体の反省としては、現場で意見を交す機会が設けられなかった点が挙げられ、事務局としても反省しています。

歴史・文化が息づく古都「函館」。市民一人ひとりの力が集まり、今日の姿が築かれた都市です。歴史・文化が息づく町としてわが白老町も負けないよう、研修成果を活かしながら、個人が協力していかなければならないのではないかと考えます。



〈左上：函館元町旧相馬邸にて
左下：講座にて報告に聞き入る学生のみなさん



右上：復元された箱館奉行所
右下：五稜郭にて



文化の秋、資料館は若者たちでにぎわいました

十月二十二日(金)、白老東高等学校の学生が、陣屋資料館見学のために今年も来館しました。学生たちは熱心に資料館・史跡を観覧し、次いで史跡保全活動に協力。今回は草刈機が入ることができず、町内のボランティアの方々の手伝っていただいている建物跡の草取りを体験していただきました。学生たちのおかげで本陣跡、勘定所跡もすっかり奇麗になり、史跡の草取りも大切な保全活動の一つとして、学生たちに学んでもらえたことと思います。本当にありがとうございました。お疲れ様です。今年も史跡内の草の伸びが良過ぎて、手が回りきらない状態でしたので大変助かりました。



〈一生懸命草取りをしてくれたみんな、ありがとう！〉

また、十月二十七日(水)には緑丘小学校の資料館見学がありました。前日に降った雪がまだ残っており寒い一日でしたが、児童たちは「寒さなんてなんのその」、白老東高校の学生たちが草取りをしてくれた本陣跡など史跡を巡りました。

“文化の秋”資料館見学や出前講座など、町内の学校では、力を入れて郷土学習に取り組んでいる姿が見受けられます。資料館も町の教育機関として、見学や出前講座を今後も積極的に受け入れていければと思います。

白老町で行われているイオル再生事業の一環に、史跡白老仙台藩陣屋跡が深く関わっているのを皆さんはご存知ですか？一体何がどのように関係しているのか。史跡内には現在でも、



〈ガマで編んだゴザと今年採れたガマ〉

アイヌの人々がかつて日常的に利用していた「ガマ」という植物を植えています。事業では標本栽培の空間として史跡を活用し、水生植物の管理育成を行っています。ちなみにガマとは、池や沼、川岸などの水辺に生える多年性の植物で、シキナ（本当の草と呼ばれ、「ゴザの素材の中でも最も良いものとされています。今年は昨年より若干良質なものが採れましたが、まだまだ通常のもの比べて小振りです。水位があまり高くないのが影響しているのかもしれない。」

チキサニの皆さん、取材にご協力くださり、ありがとうございました！！

高橋房次の偉業を伝えるべく

「アイヌ文化フェスティバル2010」の開催が、十二月二十三日（木）に決定しました。今年で五回目を数えるイベントですが、この会場にお

いて、白老町名誉町民第一号であり、「コタンのシユバイツァー」としても知られる高橋房次の展示を、陣屋資料館が任されることとなりました。医療費に悩み、医療を受けたことも受けられない数多くの村民・町民のためにと、献身的に従事し続けた稀代の名医がこの世を去って、今年でちょうど五十年。ノンフィクション作家 川嶋康男氏（札幌市在住）の著作『いのちのしずく』“コタンの赤ひげ” 高橋房次物語』が九月に刊行されたこともあり、改めて誰であろうとも分け隔てなく、医者として一人の人間として、患者と向き合った房次の事績を、町内外の方々に知っていただく最良の機会と、張り切って準備を進めているところです。

当日は、平成十九年・二十年と実施した町民劇『銀杏（いちじょう）のそよばき』のDVDも上映し、また、川嶋康男氏による講演会も開催予定です。



〈孫と触れ合う房次。七十七歳の頃〉掛川源一郎撮影

年の瀬の慌しい時期ではありませんが、沢山の方のご来場をお待ちしております。

「わかりやすい」「伝わりやすい」?

資料館・博物館の職員が思い悩んでいる問題、心配している問題の一つに、「来館者へちゃんと

伝えられているか」ということがあります。例えば陣屋資料館の場合、ときおり「子供たちには解りにくい」という“敷居の高さ”を指摘する声が聞こえてきます。



〈お昼を食べた蕎麦屋のシヨイモッコ型傘たて。遊び心に目が惹かれます〉

歴史用語が散りばめられ、解説文が比較的多めな展示室を通覧するのは、成人であっても中々大儀なことです。

去る十月二十一日、江差は開陽丸青少年センターで、平成二十二年度北海道博物館協会ミュージアムマネージメント研修会が開催されました。議題にはまさに、「解りやすい」展示解説について。「簡単な文章は、必ずしも理解には繋がらない」「丁寧な解説には、文がやはりの長くなる」「文字量だけで敬遠する人もいる」といった活発な意見が交わされていました。どこの博物館・資料館でも、同じような悩みを抱えているようです。陣屋資料館でも目下、子供たちが気軽に遊び、勉強にいられるような在り方を模索中です。

お 報 せ
年末開館 十二月三十日（木）まで
年始開館 一月 六日（木）から
お間違いない！

「仙台陣屋かわら版 第七十号（平成二十二年十二月）」
発行日：平成二十二年十一月十九日
発行所：仙台藩白老元陣屋資料館 担当者：平野・干場